

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- フランクフルト・ブックフェアに参加して1
- 理事会報告2
- 海外ニュース・委員会報告<文化厚生委員会>3

2005年フランクフルト・ブックフェアに参加して

毎年ブックフェアが開催される10月のフランクフルトは雲に覆われた日が多いと思いますが、今年は透き通った快晴のもと目にも鮮やかな紅葉に彩られた樹々に囲まれながら「第57回フランクフルトブックフェア」が華やかに幕を開けました。

今年のブックフェアは事務局発表の数字によると、出展参加団体数は史上最多の7,233団体、参加国数は101ヶ国とのことです。全体の入場者数は284,838人で昨年に比べ約6.3%増加、特に一般公開日である最終日には一日あたりの史上最高の人出となる70,790人を記録したとのことです。そして、我々の関心事である一般公開日前のビジネス客のみの入場者数も155,509人で昨年に比べ6.6%の増加となっており、全体として盛況を博し成功裡に閉幕した、という内容となっております。しかし、Publisher's Weekly誌では10月31日付け記事の中で「The Frankfurt Book Fair just ended was as busy as quiet as ever」と評され、概ね「今だもって世界最大規模のブックショーであることを誇ることは間違いないが、全体的に小振りの印象を拭えない。」との評価になっております。

ブックフェア全体の数字は別として、日本市場への海外コンテンツの輸入をテーマとして参加した一業界

人が興味を持った視点からということで私が面会したいくつかの出版社の話を紹介しますと、学術書籍出版社のうち幾つかの材料、科学系出版社からの日本市場の評価として、ここ数年で久しぶりに実績が伸びた、という報せを耳にしました。欧米のメディアで日本経済が緩やかな回復基調にあることが取りあげられている昨今、他の複数の出版社との面会時にも彼らの日本市場の将来に向けての期待感が高まりつつあるという印象を持ちました。しかし、実際の日本市場に目を向けると日本のメディアの報道内容から一部の製造業は業績を回復していることは間違いないものと思いますが、小売ビジネスは未だ回復基調の域に達したとは言えず、学術市場においても再来年に迫った2007年問題に象徴されるような少子化問題に直面しておりとても楽観視できる環境にはありません。今後も製造業を中心とする回復基調が継続し小売ビジネスに好影響を与えてくれればと切に願うばかりです。

また、世界の書籍業界に目を転じますと毎年のフランクフルトはその年に発生した大きな変化を体感することができる良い機会でもあります。近年では、大手雑誌取次店の大型倒産や大手出版社同士のM&Aが大きな話題となっております。今年についてはフェア期間中話題で持ちきりとなるようなビックニュースはありませんでしたが、私にとって目を引いたものはGoogleが最も人が集まる国際出版社ホールである8号館の真ん中に構えていたブースでした。Googleは昨年12月にNew York Public LibraryやHarvard大学を含む5つの大手図書館と“Google Print Library Project”を立ち上げ、図書館の所蔵書のデジタル化を進めております。現在、アメリカ大学出版協会(Association of American University Presses=AAUP)がこの計画が著作権を侵害する重大な恐れがあるということで懸念を表明していることは周知の事実です。



Googleの展示ブースでは、“Google Print Publisher Program”のサービス名称の元、出版社からの同種のサービスへの参加を募っておりました。出版社にとってのメリットは宣伝媒体の無償提供による売上げ増大効果、また気になる著作権の点についてはAAUPへの配慮と推測致しますがPublic Domain（公共財産）以外のフルテキストは決して公開しないことを強調しております。（<http://print.google.com/intl/en/googleprint/about.html>）今後のGoogleの動向を一業界人として興味深く見守るつもりです。

そして、外国雑誌・電子ジャーナルビジネスについては今年も“Consortium”、“Global Site License”といった幾つかのキーワードに触れる機会がありました。しかし、私の雑駁な印象ではありますが、一部の大手出版社を除く欧米出版社業界が、今後のビジネス展開

を飛躍的な拡大路線に乗せることを目標に据えつつも未だその販売方法や価格構造の転換といった部分において試行錯誤の段階にあるとの印象を持ちました。

来年は10月4－8日にインドをテーマ国として開催される予定です。

最後になりますが、これまで何回かブックフェアに参加させていただいたつれ年々この時期のフランクフル트가暖かくなっているという印象をもっております。特に今年は例年に比べ開催週が最も遅く、フェア期間中盤には小雨がばらつくほど天気が崩れたにもかかわらず、8号館でのミーティング中にはジャケットを着用していると汗ばむような気候でした。地球温暖化現象の一面がこのようなところにも伺えるような気がします。

〔丸善インターナショナル株式会社（米国）西川 聡〕

理事会報告

日時：平成17年9月22日（木）

委員会報告

1. 委員会報告

(1)総務委員会

上半期収支状況がほぼ予算通りの推移と説明された。

(2)広報委員会

前回のGoogleのセミナー（10月4日）には36名の参加があった。内容的にはおもしろかったという意見が多かった。次回は3月を予定している。

(3)ダイレクトリー・HP委員会

11月10日に次回委員会を行う。11月の理事会で報告する。

(4)文化厚生委員会

- ・新年賀詞交歓会を1月6日に行う。
- ・10月21、22日に古書会館で洋書まつりが行われた。協会会員も数社出店していた。全般的に専門書の売れ行きが良かった。

(5)事業委員会

10月29、30日に神保町BFが行われた。協会からは6社が出店した。昨年は雨にたたられたが、今年は一時降られたものの、ほぼ順調に販売を行うことができた。

2. その他

(1)㈱サンメディアから出されていた入会申込みが承認された。

(2)規約改正特別委員会（丸善担当）を発足するにあたり、委員として新田、金原両理事に要請があり、両人の了承を得た。

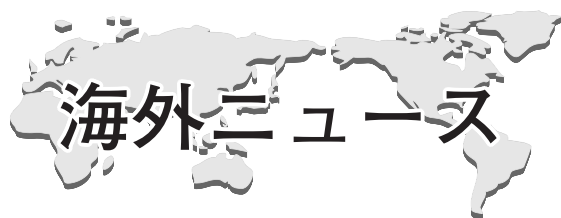
(3)英国出版社訪日

訪問先の書協から詳しい資料が出され、新田、金原両理事から説明を受けた。懇談会、懇親会があるので、協会会員にも案内するよう要請があった。

(4)新田理事から

- ・書協では消費税増税に対し逓減税率を書籍にも適用するよう運動を行っている。洋書はどうするのか検討願いたい。人と金がかかる覚悟は必要。
- ・活字文化振興法が施行された。学術書に対する大学、研究機関等への予算措置も考えられるので、対応を考えておく必要がある。
- ・紀伊國屋に再入会を勧誘したが、時期尚早と丁重な断りがあった。

(5)協会主催セールは、古書会館が金・土は満杯なので10月は断念し、3月の春休みをターゲットに計画する。



◆… ハロルド・ピンター、ノーベル文学賞受賞

2005年度のノーベル文学賞は、英国の劇作家ハロルド・ピンターが受賞した。この決定は10月13日にスウェーデン王立アカデミーにより発表された。副賞として130万ドルが授与される。

受賞の感想を求められたピンターは、「なんと言ってもよいかわからない。知らせを受け、たいへん感動している。現在感じていることを明確に説明することができないくらいだ」と述べた。

発表に際し、アカデミーのHorace Engdahlは、75歳

になるピンターの劇作が、「抑圧された密室状態で、日常の会話や力に隠された危険を暴き出している」と延べ「20世紀後半において英国の戯曲を代表する最も優れた作家」と評価した。

ピンターの処女作は1957年に発表された *The Room* で、1959年発表の *The Caretaker* が最も良く知られている。最新作は、*Remembrance of Things Past* で、2000年に刊行された。

ピンターはまた、その政治的主義主張でも知られる。1973年以降、彼は人権擁護論者として評価され、たびたび論争の中心になったこともある。ラジオ劇や映画・テレビの脚本も書いており、*The Servant* (1963)、*The Accident* (1967)、*The Go-Between* (1971)、*The French Lieutenant's Woman* (1981、原作はジョン・ファウルズの著作) 等が著名である。

受賞式は12月10日、ストックホルムで行われる。

Authorlink.com OCTOBER/13/2005

委員会報告 <文化厚生委員会>

フォーティ・ラブ (JAIP テニス同好会)

2005年度夏合宿「西大宮テニスクラブ」7月23日(土)

JR指扇駅下車、荒川の河川敷にあるクレーコートで14社18名の参加を得て、和やかな雰囲気の中で無事日程をこなすことが出来ました。10時から軽くアップして夕方5時まで一人平均5試合近くこなし、最後にトーナメントを行って終了しました。今回はマグローウヒルの宍戸さんも参加され一部ではかなりレベルが高いマッチも行われました。

昨年10月の秩父での合宿の時に中越地震がありましたが、今回もコートで走り回っている最中にグラツときて、結局9時近くまでタイヤが乱れ皆さん帰宅するのが大変なようでした。今後は天変地異とは是非とも無縁でありたいものです。

2005年度秋合宿「秩父ミュージズパーク」10月29日(土)・30日(日)

この10月は毎週末雨に祟られており、この日も天気予報では確実に雨になるとの事で秩父に向かう足も若干重かったのですが、ふたを開けてみれば何と言う

ことは無い、途中で日差しも見られ終日楽しくコート駆け回ることが出来ました。しかし東京地方はやはり雨模様だったらしく、皆さん我こそが「晴れ女」だ「晴れ男」だとかかなり盛り上がっておりました。

毎年恒例の秩父合宿ですが、今回は8社9名の参加を得て9時過ぎからウォームアップを開始、途中一時の昼食タイムをはさんでほとんど休む暇無くゲームをこなして5時近くに無事終了しました。その後ハードコートで疲れ切った足腰を温泉に浸した後、美味しいお酒を楽しみながらテニス談義は絶えないのでした。

次回冬合宿予定は11月10日にご案内のとおりです。これから始めようと思っている方、以前やっていたけどかなりブランクがあるという方、いつでもどなたでも大歓迎です。やさしいコーチ陣がしっかりと面倒を見させていただきます。思いっきり汗を流して、美味しいビールを飲みましょう。

カ石(TBL)

既刊53タイトル好評発売中！ 以下続刊！

洋販ラダーシリーズ

英語を楽しんでもらいたいとの思いから、このシリーズは開発されました。やさしい英語で書かれた本文、学習者のストレスを大幅に軽減する巻末辞書。細かく設定された難易度、ジャンル、そしてウェブでのリスニングサポート。自分にぴったりの1冊が選べるから、あなたに合ったペースで英語とつきあえる。それが洋販ラダーシリーズです。



177mm×110mm／並製・カバー付き／平均130ページ／定価 ¥735(税込)から

売れ筋
タイトル

●巻末辞書でいつでもどこでも単語チェック

レベル1・2では文中の全ての単語が、レベル3以上は中学校レベル外のすべての単語が掲載されている。いつでも単語をチェックできるから、読書スピードが大幅に上がる。

●www.yohanstudy.com から朗読音声ダウンロード

ラダーを使って学習する人を応援するウェブサイトを開設 (www.yohanstudy.com)。本のカバーにヘッドフォンマークが付いている書籍は、ウェブ上から朗読音声ファイルをダウンロードできる (有料: 200円～)。

●洋販メソッドによる 5段階のレベル設定

使用語彙 1000 語のレベル1から、英検2級と同水準の語彙・構文で読めるレベル5まで、まさにラダー (はしご) をのぼるようにステップアップできる。

〈レベル〉 〈使用語数〉

〈読解に必要な英語力〉

LEVEL 1	1000語	TOEIC®300点以上/英検4級以上
LEVEL 2	1300語	TOEIC®350点以上/英検3級以上
LEVEL 3	1600語	TOEIC®400点以上/英検準2級以上
LEVEL 4	2000語	TOEIC®470点未満/英検準2級以上
LEVEL 5	制限なし	TOEIC®470点以上/英検2級以上

発行=アイビーシーパブリッシング 発売=洋販 (日本洋書販売株式会社)

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-8 赤坂コミュニティビル 5・6・7階

TEL 03-5786-7420 FAX 03-5786-7411 (カスタマーサービス) www.yohan.co.jp

YOHAN